

【講演会等 開催報告】

演題： International collaborative research focusing on the oxidative stress hypothesis for novel drug development in psychiatric diseases

演者： 橋本 均、James Waschek、松崎 伸介

日時： 平成27年1月23日（金） 15:00～17:00



都医学研セミナーの様子。当日は、橋本博士（左）から神経精神疾患研究の現状と阪大薬学研究科で行っている創薬研究の紹介があった後、Waschek博士（中央）と松崎博士（右）からも貴重な講演を頂きました。

去る2015年1月23日（金）、東京都医学総合研究所において、同所の主催、日本学術振興会（JSPS）頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムの協力で、都医学研セミナーが開催されました。

頭脳循環プログラムの主研究担当者である橋本 均 教授（大阪大学大学院薬学研究科）に加え、James Waschek 教授（Department of Psychiatry and Biobehavioral Sciences, UCLA）、松崎 伸介 准教授（大阪大学大学院連合小児発達学研究科分子生物遺伝学研究領域）が講演をされました。

3人の先生方から“Basic research for molecular mechanisms and drug development in psychiatric diseases”, “VIP/PACAP signaling in psychiatric diseases and neuroinflammatory stress”, “SUMOylation in the neural system and diseases”と題する講演がなされ、近年、統合失調症やPTSDとの関連が報告され注目されている神経ペプチドPACAPの研究成果を含め、精神疾患がどのようにして発症しうるのか、その仮説に関する興味深いご発表と討論がなされました。所内外からのべ50人程の参加者があり、講演の後の質疑応答では時間を超過して活発な議論が行われました。